

レビューシート（令和4年度レビュー対象事業：フォローアップ型）

様式3

レビュー項目 (事業名)	地域楽農生活センター開設支援事業と田舎暮らし農園施設整備支援事業の発展的統合による楽農交流人口増加に向けた支援の充実（田舎暮らし農園施設整備支援事業）				部(局)	農林水産部	
					所管課	総合農政課	
					担当班	楽農生活班	
					連絡先	078-362-9198	
開始年度	平成28年度	終了年度	令和7年度	関連計画等	ひょうご農林水産ビジョン2030		
事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 国補助事業 <input type="checkbox"/> 県単独事業						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直執行 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> その他()				実施主体等	市町・JA等	
事業目的	農山漁村への二地域居住・定住及び農林漁業体験施設の開設の促進による、地域活性化（地方創生）及び楽農生活の推進						
事業概要	二地域居住の促進や「農」に親しむ機会の創出等に向け、遊休農地等を活用した農園等の整備を支援 ○補助対象 遊休農地等を活用し、農園利用する者、農林漁業体験施設を開設する者等 ○対象経費 農園施設整備：ビニールハウス、トイレ、農機具庫、ベンチ等 空き家改修・農林漁業体験施設改修：水回り設備、内外装・屋根等改修工事 ○補助率 農園施設整備支援事業：1/2（補助上限：750千円）、空き家改修：1/3（補助上限：1,000千円） 農林漁業体験施設開設支援事業：1/3（補助上限：1,500千円）						
業務フロー	① 申請（市町・JA・市民農園運営者等） → ② 受付・審査（県） → ③ 交付（県）						
R4レビュー時の外部委員会意見	・楽農交流人口増加に向けては、どうやって始めてもらうかなどが課題となる。始めてもらうには市町等のイベントと体験希望者等とのマッチングがうまくいっているかを確認する必要がある。 ・アウトカム指標が施策レベルの目標となっていることと、事業の最終目標がはっきりとしていない。楽農生活の実践イメージとしている「買う・食べる」「体験する」「学ぶ・育てる」「田舎暮らし・就農確保」の各段階に分けて目標を設定すべき。						
改善結果	○体験希望者とイベントのマッチングに当たり、より細やかなニーズに対応できるよう、市町・JAを主体とするイベント実施から、個々の農林漁業者を主体とするイベント実施に重点を置く施策に転換 ○個々の農林漁業者に対する支援として、ハード面で、引き続き農林漁業体験施設の整備支援を実施していることに加え、R6から新たにソフト面として、体験プログラム開発に係るアドバイザー派遣や、体験コンテンツの磨き上げ・情報発信などの支援を開始 ○農園施設の整備は継続実施 ○楽農生活に係る目標は以下のとおり設定 (1)「体験する」：農林漁業体験施設数（田舎暮らし農園施設整備支援事業） 事業で開設した農林漁業体験施設での新規イベント参加者数（田舎暮らし農園施設整備支援事業） (2)「学ぶ・育てる」：栽培講座受講者数（地域楽農生活センター開設支援事業） 栽培講座数（地域楽農生活センター開設支援事業） (3)「田舎暮らし・就農確保」：農園施設整備の実施地区数（田舎暮らし農園施設整備支援事業）						
事業に要するコスト	区 分		4年度決算額	5年度決算額	6年度当初予算額	7年度当初予算額	
	事業費①		8,447千円	6,892千円	3,750千円	2,250千円	
	経費内訳	報酬・賃金	0千円	0千円	0千円	0千円	
		委託料	0千円	0千円	0千円	0千円	
		補助金・交付金	8,371千円	6,892千円	3,750千円	2,250千円	
		貸付金	0千円	0千円	0千円	0千円	
		その他	76千円	0千円	0千円	0千円	
	(財源内訳)	(国庫)	(4,223千円)	(3,446千円)	(1,875千円)	(0千円)	
		(特定)	(0千円)	(0千円)	(0千円)	(0千円)	
		(起債)	(0千円)	(0千円)	(0千円)	(0千円)	
		(一般財源)	(4,224千円)	(3,446千円)	(1,875千円)	(2,250千円)	
	予算額②		10,933千円	10,750千円	3,750千円	2,250千円	
	※精算補正前の予算を記載						
	執行率((①/②)×100)		77.3%	64.1%	100.0%	100.0%	
	人件費③ (a+b+c)		従事人員 0.4人	従事人員 0.4人	従事人員 0.4人	従事人員 0.4人	
		3,303千円	3,300千円	3,488千円	3,599千円		
職員給与費	a	2,854千円	2,862千円	3,040千円	3,161千円		
賞与引当金繰入額	b	233千円	238千円	233千円	238千円		
退職手当引当金繰入額	c	215千円	200千円	215千円	200千円		
総コスト(①+③)		11,750千円	10,192千円	7,238千円	5,849千円		

レビューシート（令和4年度レビュー対象事業：フォローアップ型）

様式3

	指標名	区分	4年度実績	5年度実績	6年度見込	7年度目標	最終目標【年度】
評	成果指標(アウトカム指標①) 楽農生活交流人口(万人) [農林漁業体験施設等利用者数] (ひょうご農林水産ビジョン2030)	目標	1,121	1,134	1,147	1,160	1,224
		実績(見込)	1,129	1,069	(1,107)	(1,160)	【令和12年度】
		(単位当たりコスト)	(10千円)	(10千円)	(7千円)	(5千円)	
		達成率(見込)	100.7%	94.3%	(96.5%)	(100.0%)	
価	成果指標(アウトカム指標②) 事業で開設した農林漁業体験施設での 新規イベント参加者数	目標	—	768	1,152	1,536	1,536(累計)
		実績(見込)	—	(768)	(1,152)	(1,536)	【令和7年度】
		(単位当たりコスト)	—	(13千円)	(9千円)	(7千円)	
		達成率(見込)	—	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)	
指	活動指標(アウトプット指標①) 農園施設整備の実施地区数	目標	13	18	23	28	28(累計)
		実績(見込)	11	18	(21)	(27)	【令和7年度】
		(単位当たりコスト)	(47千円)	(566千円)	(345千円)	(217千円)	
		達成率(見込)	84.6%	100.0%	(91.3%)	(96.4%)	
指	活動指標(アウトプット指標②) 事業で開設した農林漁業体験施設数	目標	4	6	—	—	10(累計)
		実績(見込)	3	5	—	—	【令和5年度】
		(単位当たりコスト)	(3,917千円)	(2,350千円)	—	—	
		達成率(見込)	75.0%	83.3%	—	—	
標	終期設定	有(R7年度)					無
標	改善基準	—					

自	評価の視点	評価	目標に対する達成状況(総合的評価)								
己	○有効性(評価指標に対する実績) ・県民ニーズを的確に踏まえた事業か ・民間での事業実施は見込めない事業か ・指標・目標設定は適切か ・活動実績は十分か ・想定された成果を達成しているか など	・田園回帰や農林漁業体験ニーズの高まりを受け、設定しているすべての指標について、目標に近い実績が上げられている。 ・アウトプット指標②は、目標年度をR7年度に設定していたが、農林漁業体験施設開設支援事業がR5年度で終了したことで目標未達となった。	A : 満足のいく実施状況 ○農林水産漁業体験施設数は増加傾向 < 農林漁業体験施設数 > (単位:施設) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>農林漁業体験施設数</td> <td>58</td> <td>62</td> <td>126</td> </tr> </tbody> </table> ○R6から拡充した農林漁業施設へのソフト面の支援は想定を超える実績(アドバイザー派遣11事業者、体験コンテンツの磨き上げ・情報発信等の支援7事業者)		R4	R5	R6	農林漁業体験施設数	58	62	126
		R4		R5	R6						
農林漁業体験施設数	58	62	126								
○効率性(最小のコストで最大の効果) ・業務改革に取り組んでいるか ・コスト削減の工夫を行っているか ・ICTや民間活力は活用しているか ・受益者負担は適正か ・財源確保の工夫は行っているか など	・県HPでの広報に加え、移住関係課と連携してお互いの事業についてPRを実施するなど効率的なPRにより事業を展開している ・事業者にも応分の負担を求めている(補助率1/2)										
評	課題・今後の方向性										
価	<input checked="" type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 他事業と統合 <input type="checkbox"/> その他 説明〔 農林漁業者のニーズを踏まえ、適宜事業内容の見直しつつ事業を継続実施 〕										

外部委員会意見

○委員会の意見を踏まえ、楽農生活の各段階(「体験する」「学ぶ・育てる」「田舎暮らし・就農確保」)に応じた指標設定がなされ、体験希望者とのマッチング精度向上のための施策転換や、ソフト支援の追加(アドバイザー派遣・情報発信支援等)など、改善が着実に進められている点は高く評価できる。
 ○指標達成状況についても、交流人口や施設整備数、新規イベント参加者数など、概ね目標に近い実績が上がっており、事業の有効性が確認できる。
 ○一方で、「田舎暮らし・就農確保」に関わるアウトカム指標が記載されていないため、(農園施設を利用した)就農人口の創出・定着を測定する何らかの指標を検討していくことが望まれる。
 ○今後は、体験施設の活用促進とともに、体験者のニーズに即したプログラム開発やPR手法の工夫を継続し、さらには就農人口に関わるアウトカムを測定することを通じて、地域との関係人口や就農人口の創出・定着につなげていくことが期待される。